

●新発田駅地上連絡通路の設置について

Q.

各地で記録的大雨が頻発生しており、先日も新発田市でも大雨により各所で道路の冠水などが生じました。一般道は比較的速やかに開通するものの、新発田駅の地下道にあるエレベーターは故障し、修理にかかる時間、費用は他と比べ物にならないと思います。また、地下道が冠水している状態では、本町側と豊町側の往来ができません。跨線橋や踏切があるものの徒歩では結構な遠回りとなり、車での移動は有事の際には混雑が予想されます。本町側の交番職員に豊町側へ出動して欲しくても、速やかな対応ができるとは考えにくいです。これらの問題を解決するため、地上連絡通路を設置し、常時通行可能となることを希望します。

足の不自由な方や荷物を持った方々にとってエレベーターは必要であり、地上用エレベーターであれば浸水被害は軽減でき、不自由さの軽減にも繋がります。但し、地下道が使用可能な状態が維持できるのであれば、地上連絡通路と併用することでさらなるリスク低減に繋がると考えます。大雨災害へのリスクを考えると、費用対効果は十分であると考えます。併せて、豊町側への改札設置により新発田駅の利便性は飛躍的に向上するでしょうし、新発田市でも進む人口減少の歯止めにも多少の影響はあるものと思います。

(令和2年8月受付)

A.

新発田駅地下道のエレベーター故障については、多大なご不便・ご迷惑をお掛けし、お詫びいたします。今回の被害は、当市街地では経験したことがない集中豪雨により発生したもので、1時間に降った50mmは、新発田市の歴史の中でも最大となる降雨量をもたらした災害であると捉えています。そのため、国の災害復旧事業の認定を受け、復旧工事を進めていますが、故障した機器が受注生産品であり、工事の完了は令和3年1月末となる見込みです。時間を要してしまいますことを、重ねてお詫びいたします。

今後の対策については、地下道へ雨水を流入させないことが基本と考えており、地下道出入り口部の嵩上げなどを検討しています。また、「駅の橋上化」に関しては、平成22年度に、橋上化と既存の地下道を活用する場合とで、市民の皆様や有識者からのご意見をいただき、最終的には経済性に優れた既存の地下道を改修する計画を採用した経緯があり、現時点で、この方針を転換することは難しいことをご理解下さいますようお願いいたします。

(令和2年9月15日回答)

※上記の回答内容はすべて回答日時点のものであり、現在とは異なる場合があります。